

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-345162

(P2005-345162A)

(43) 公開日 平成17年12月15日(2005.12.15)

(51) Int.Cl.⁷GO1F 19/00
// A47J 43/28

F I

GO1F 19/00
GO1F 19/00
A47J 43/28

テーマコード (参考)

4B053

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2004-162670 (P2004-162670)
(22) 出願日 平成16年6月1日(2004.6.1)(71) 出願人 591212844
佐藤 順彦
神奈川県座間市相模が丘6丁目13-9
(72) 発明者 佐藤 順彦
神奈川県座間市相模が丘6丁目13番9号
Fターム(参考) 4B053 AA03 CA30 CB10

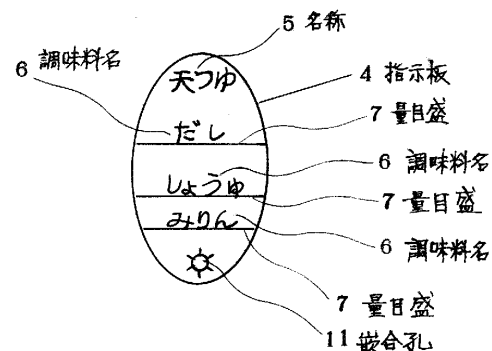
(54) 【発明の名称】 合わせ調味料の調合指示板

(57) 【要約】

【課題】 合わせ調味料を計量カップで作るとき、それぞれの調味料の配合割合を容器の底部に設ける指示板に記載することによってその種類を数多くすることと、メニュープレートを周壁に取り付けるものより入れ過ぎたり溢すことの無い調合指示板を提供する。

【解決手段】 開口部1を有し、傾斜した透明な底部2を一体に形成した容器本体3に使用する指示板4で、その指示板4の表面には各種の調味料名6と各種の量目盛り7とを記載し、その指示板4を容器本体3の傾斜した底部2の外側や内側から着脱可能とした取り付け方法によって嵌着出来るものとした。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

開口部を有し、傾斜した透明な底部を一体に形成した容器本体の底部外側面より着脱可能状態として装着する指示板に、所要の合わせ調味料を作る各種の調味料名と調合する各種の量目盛りとを記載したことを特徴とする合わせ調味料の調合指示板。

【請求項 2】

指示板を容器本体の底部内側面より着脱可能状態として装着する請求項 1 記載の合わせ調味料の調合指示板。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

この発明は、各種の調味料を混ぜ合わせて合わせ調味料を作る計量カップの底部に設けるもので、各種の調味料名とその調合する各種の量目盛りとを記載した合わせ調味料の調合指示板に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、合わせ調味料を作る方法としては、透明な計量容器の周壁に所定の飲食物や調味料に要する各種の調味料名や配合割合の各種の量目盛りを表示した調理指導容器の特許文献 1 があった。

【0003】

20

また、各種の調味料名や配合割合の各種の量目盛りをメニュープレートに記載したものを作成し、そのメニュープレートを計量カップの外側になる周壁に取り付けと取り外しとを可能にした料理用計量カップの特許文献 2 もあった。

【0004】

【特許文献 1】特開平 8 - 278183 号公報

【特許文献 2】特開平 9 - 238853 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

従来の特開平 8 - 278183 号の調理指導容器における容器の周壁に、各種の調味料名や配合割合の各種の量目盛りを表示することは、その容器の周壁の広さによって制限されるため合わせ調味料の種類を数多く表示することが出来ない欠点があった。

30

【0006】

また、特開平 9 - 238853 号のメニュープレートを周壁に取り付けて横から目盛りを見るものでは、注ぎ込まれている調味料の先端とメニュープレートの目盛りとを一つの視線に入れて見ることが出来ず、調味料を容器から外れて注ぎ込んだり、目盛りより多く注ぎ込んだりする測り難さのある欠点があった。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明の合わせ調味料の調合指示板は、開口部 1 を有し、傾斜した透明な底部 2 を一体に形成した容器本体 3 に使用する指示板 4 で、容器本体 3 の傾斜した底部 2 の外側や内側から着脱可能とした貼着や嵌着手段によって装着させて使用するものである。

40

【0008】

そして、この指示板 4 の上端には、合わせ調味料の名称 5 を見出しとして記載し、各種の調味料名 6 と調合する各種の量目盛り 7 とを記載しているものである。

【0009】

したがって、開口部 1 より調味料の注ぎ先と量目盛り 7 とを見ながら、下側から順次所定の量を加えることが出来るので、間違いが少なく、指示板 4 に記載の合わせ調味料を作ることが出来るものである。

【発明の効果】

50

【 0 0 1 0 】

この発明によれば、指示板 4 を底部外側面 8 と底部内側面 9 とに取り付けと取り外しとができ、交換が出来るものであるから、指示板 4 を数多く作ることによって、様々な合わせ調味料を作ることが出来、自分で考えた自分だけの合わせ調味料の調合指示板とし保存することも出来る。

【 0 0 1 1 】

そして、使用するときには、開口部 1 より調味料の注ぎ先と量目盛り 7 とが一つの視線に入るので、注ぎ外しや入れすぎなどの間違いが起こり難く、計量による合わせ調味料が簡単に作ることが出来るものである。

【 0 0 1 2 】

本発明の指示板 4 は、カクテルやジュースなど利用範囲が広く、変わらない味が誰にでも作ることが出来、化学実験に使われる王水やクロム洗浄液等を作るときの指示板 4 としても作れるもので、幅広く使用することが出来るものとなる効果がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 3 】

以下、実施例を図面に基づいて説明する。

【実施例 1】

【 0 0 1 4 】

本発明に係わる実施例の一つとしては、図 1 の平面図に示すように、指示板 4 は、ポリプロピレン等によるプラスチック類やたるみが無く張りのある紙質などによる板状とした楕円形で、その使用状態は図 2 に示すような、容器本体 3 の底部 2 の底部外側面 8 に重ね合わせたものとして取り付けるものとしている。

【 0 0 1 5 】

そして、この指示板 4 の表面には、合わせ調味料の名称 5 を一番上に明記し、調合する各種の調味料名 6 と調合する量を表示する線による量目盛り 7 とを設けている。

【 0 0 1 6 】

この指示板 4 の底部 2 への取り付けは、上部ではそのまま差し込めば良く、下部においては底部 2 に設けた突起部 10 と指示板 4 に設けた嵌合孔 11 とのホック的なものによって嵌着させている。

【 0 0 1 7 】

このホック的な嵌着の他に、貼り付けと剥がし取りとが出来る粘着によって底部 2 への取り付けが考えられるが、調理台の上に計量カップを置いたままで調合する場合には指示板 4 の下端部が調理台の面に接するので、指示板 4 は取り付け手段を設けなくても外れ落ちることがない。

【 0 0 1 8 】

底部 2 の底部内側面 9 に指示板 4 を取り付けることも考えられるもので、底部内側面 9 に取り付けるときには突起部 10 や嵌合孔 11 等が無くても底部内側面 9 に指示板 4 を載せ置くだけで十分である。

【 0 0 1 9 】

このように、指示板 4 を底部 2 の底部外側面 8 から重ね合わせたものは、底部 2 が透明であるから、開口部 1 から見て指示板 4 の表面に書かれた各種の調味料名 6 と線による量目盛り 7 とをはっきりと見ることが出来、注ぎ込む調味料の注ぎ先を指示板 4 に注ぎ当てながら、液面の上昇と量目盛り 7 とを見ながら調合することが出来るものである。

【実施例 2】

【 0 0 2 0 】

図 3 に示される第 2 の実施例では、底部 2 の縁の周辺部分を傾斜させた計量カップのものに対して、その底部 2 の一部である傾斜した周辺傾斜底部 12 に嵌着させるものとしていて、その指示板 4 の形状は、図 4 に示すものとなる。

【 0 0 2 1 】

この指示板 4 には各種の調味料名を記載する場所が無いので、小さい字にするか簡略に

10

20

30

40

50

した字や記号を記載することになり、各種の調味料名とそれぞれに関連付けた色を別表などによって決めておくことで、各種の色で調味料名を表し、その色幅で量目盛り7を表した状態の指示板4を形成することが考えられる。

【実施例3】

【0022】

その他、第3の実施例としては、図5に示すように、底部2の中央部分を差し口13に向けて傾斜させた中央傾斜底部14に嵌着させるものとしていて、その指示板4の形状は図6の平面図に示すものとなる。

【0023】

計量カップの底部2を傾斜させることは、その形状を様々に考えることが出来るものであって、底部の周辺や中央部分の他に底部の中心を開口部1に向けて引き上げた円錐形状に傾斜させることも考えられ、これらの底部に合った円錐形状の指示板4を作ることとは当然考えられるもので、この円錐形状の指示板4を嵌着させるには重ね合わせることで十分である。

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図1】この発明の実施例1を示す平面図である。

【図2】傾斜した底部外側面に指示板を設けた状態を示す縦断面図である。

【図3】第2の実施例の計量カップを示す斜視図である。

【図4】傾斜した周辺傾斜底部に嵌着させる指示板を示す平面図である。

【図5】第3の実施例の計量カップを示す斜視図である。

【図6】傾斜した中央傾斜底部に嵌着させる指示板を示す平面図である。

【符号の説明】

【0025】

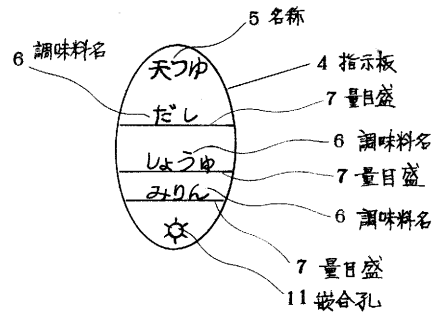
- 1 開口部
- 2 底部
- 3 容器本体
- 4 指示板
- 5 名称
- 6 調味料名
- 7 量目盛り
- 8 底部外側面
- 9 底部内側面
- 10 突起部
- 11 嵌合孔
- 12 周辺傾斜底部
- 13 差し口
- 14 中央傾斜底部

10

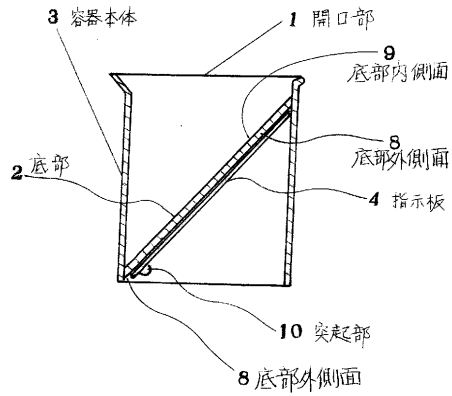
20

30

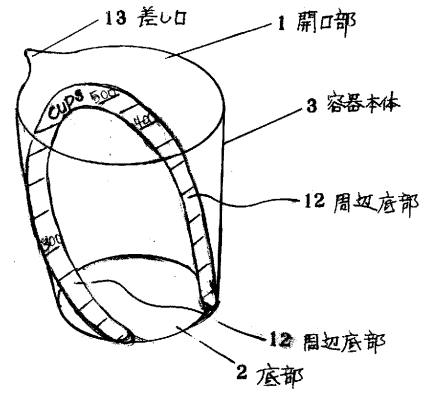
【図 1】



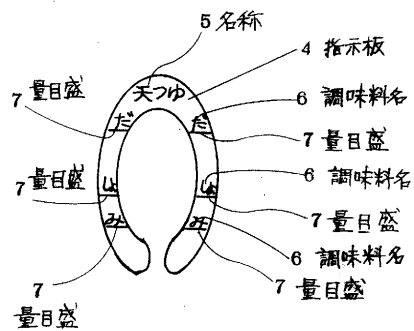
【図 2】



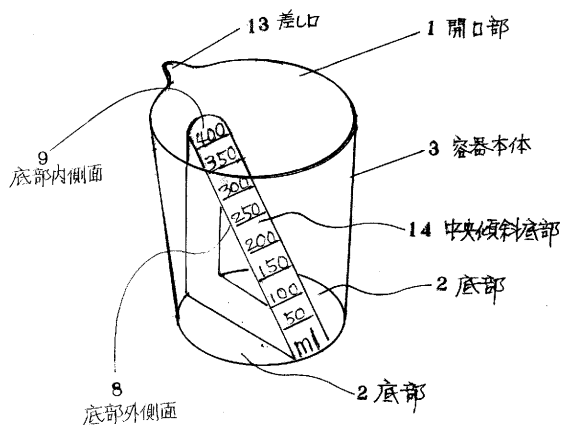
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

